

研究・調査報告書

報告書番号	担当
63	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Tobacco smoking, alcohol drinking and Hodgkin's lymphoma: a European multi-centre case-control study (EPILYMPH). 喫煙、飲酒とホジキンリンパ腫：ヨーロッパ多施設症例－対照研究 (EPILYMPH)	
執筆者	
Besson H, Brennan P, Becker N, De Sanjose S, Nieters A, Font R, Maynadie M, Foretova L, Cocco PL, Staines A, Vornanen M, Boffetta P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
British Journal of Cancer.2006 Aug 7;95(3):378-84	
キーワード	
喫煙・飲酒・ホジキンリンパ腫	
要 旨	
目的・方法： 1998年から2004年の間に、ホジキンリンパ腫 (HL) の病因としての喫煙と飲酒の影響について、スペイン、フランス、イタリア、ドイツ、アイルランド、チェコ共和国で登録された症例340例、対照2,465例について解析した。	
結果： 喫煙者ではHLのオッズ比 (OR) が有意に上昇していた (OR=1.39、95%信頼区間 (CI)=1.04-1.87)。35歳未満 (症例179例) と35歳以上 (症例161例) に分けて解析した結果、35歳未満では、喫煙とHLに有意な関連を認めなかったが、35歳以上では、喫煙者は非喫煙者と比較してHLのリスクが2倍になり、そのORは2.35 (95%CI=1.52-3.61) であり、量－反応関係があることが示唆された。飲酒については両年齢層で予防的効果がみとめられた。これまで定期的に飲酒したことのない者と比較して、定期的に日常飲酒者をしたことのある者のORは若年層では0.58 (95%CI=0.38-0.89) で、高年齢層では0.50 (95%CI=0.34-0.74) であった。喫煙と飲酒の間に相互作用は認めなかった。	
結論： 本研究の結果は、飲酒がHLに対し予防効果をもつとした先行研究の結果と一致する。また本研究の結果は、中高年齢者以降で喫煙がHL発症を促すことを示唆している。しかしながら本研究の結果は注意深く取り扱う必要がある。更なる研究、特にアルコールに関して、が必要である。	